自ら音楽にはたらきかけようとする心情を育む

音楽科研究部:齊藤豊 朝蔭恵美子 森尻彩 越川徹郎

1. 本校音楽科の目標

本校音楽科で育てたい子どもは、「自ら音楽にはたらきかけようとする心情」をもった子どもである。この"心情"は様々な音楽経験を積み重ねながら育まれた「仲間と表現をつくる力」と、その子の中にわき起こる『自信』とともに生まれる心の在りようと考えた。

またこの自ら音楽にはたらきかけていく心情は,学び続ける原動力となり,自分たちの表現をよりよくしようと追究する姿や,次の活動への期待をもつ姿となって現れると考えている。

ここでいう「自ら音楽にはたらきかける」子 どもとは、「わかった」「できた」と満足する だけでなく、その経験をもとに「もっと知りた い」「もっとできるようになりたい」「もっと してみたい」「もっとききたい」という願いを 持って音楽に関わる子どもである。

2.音楽活動を通して育てたい力と子どもたちの『自信』

私たちは目標を実現するために,子どもたちの「仲間と表現をつくる力」を育てることが必要だと考えている。学級の仲間と表現をつくる中で音楽の楽しさにひたり、音楽や仲間のさらなる魅力に出会いながら,子どもたちは仲間と表現をつくるために必要な経験を積み重ねていく。子どもたちは自身の経験から,音楽表現をするために必要な知識や技能とそれを獲得するための方法,経験から導き出される表現に対する発想,仲間と協働するスキルなどの力を身につけていく。そのために私たち音楽科では,各学年やそれぞれの子どもの姿を見取りながら,どのような活動をすることが有効かを検討し,指導計画を更新している。

さらに本校音楽科では,現在学校の研究テー マに掲げている「自分の学びに自信をもてる子 ども」を、これまでの音楽経験を通して育まれ た「仲間と表現をつくる力」が一人一人の『自 信』となり、それをもとに次の表現活動に自ら はたらきかけていく子どもであると考えた。な ぜなら,自ら音楽にはたらきかけていく子ども に共通しているのは,新たな活動や,表現を一 緒につくる仲間と向き合ったときに,「○○す ればできるかもしれない」という"はじめの一 歩"をこれまでの経験を足がかりに踏み出すこ とができる子どもたちであったからである。こ のような「自分の持つ力を信じること」をバン デューラは「自己効力の信念」といい, その信 念が「人間の動機と達成に著しく寄与している」 1と述べている。私たちは,ここでいう"動機" が本校音楽科の目標に掲げている"自らはたら きかける"契機になると考えた。では「自己効 力の信念」を一人一人の子どもたちに育むため には、どのような経験が必要なのだろうか。技 能教科の側面をもつ音楽科では「できた」こと や「わかった」ことが表現活動に対する『自信』 に直結することが多い。しかし"その子が感じ ている『自信』"はその子の内面で感じているこ となので、どのように捉えているかを見取るこ とは容易ではない。また,このような「自己効 力の信念」は,教えて身につけさせることもで きない。そこで、『自信』が子どもの中にわき起 こっていることを「○○すればできるかもしれ ない」と見通しをもって自分の活動を進めてい る姿であると考え,子どもの道筋で展開を更新

¹ バンデューラ ,A. 編 本明寛 ,野口京子 監訳 (1997年) 「激動社会における個人と集団の効力の発揮」『激動社会の中の自己効力』, p.3.

していく授業を指導計画の中に位置づけた。

3 . 子どもの道筋で展開する授業で育む資質・ 能力

本校音楽科の活動計画では「音楽経験を広げる活動」という2つの視点で活動を構成し、授業を展開している。そのうち、後者の「仲間との作品づくりをする活動」を重点活動として、各学年の計画の中に位置づけ、その活動で育みたい資質・能力を考えた。(次頁表)これらは音楽の枠組みの、さらに先にある「その子の学び」を豊かにするために育みたい資質・能力として位置づけたものである。この資質・能力が「仲間と表現をつくる力」という「生きて働く力」になると考えている。

本年度は,その活動で生かしてほしいその子 の資質能力を描き実践をしている

4. 音楽科の目指す子ども像

- ・自らの表現を追究しつつ , 共に音楽をた のしむ子ども
- ・表現したいことをもち , 見通しをもって 活動を進める子ども

経験を重ねてきた音楽活動がその子の中でつながりをもって構成され、「仲間と表現をつくる力」が育まれた姿をこのように描いた。この子の「仲間と表現をつくる力」は、新しい音楽活動に出会ったときに「〇〇すればできるかもしれない」という"はじめの一歩"を踏み出す『自信』となって自分たちの道筋で音楽活動を進めていくと考えた。

そこで,このような子どもたちの活動を支える教師の手だてを次のように整理した。

5. 教師の手だて 音楽経験を広げる表現や鑑賞の活動を設定

2 「音楽経験を広げる活動」としての常時活動 や,比較的短時間で行う表現活動,学校行事等 に関連する音楽活動,様々な鑑賞活動

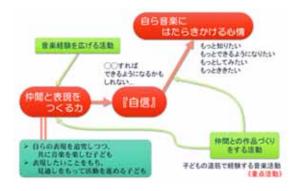
する

これまでの経験を生かして,仲間とじっく り表現をつくり上げる音楽活動を展開する 子どもの道筋で活動が展開していくよう, 子どもの表現をつくる姿や,仲間と関わり合 う姿から授業設計を更新していく

低中学年では の活動を,比較的短い周期で展開するようにしている。そこでは仲間と一緒に表現活動をする経験を積み重ねていく。また,練習した表現を発表する機会や,様々な行事の中で音楽を通した交流を年間計画の中に位置づけるようにしている。中学年後半からは,それまでの経験を生かした「仲間との作品づくり」の活動を重点活動として位置づけている。とくに年度末に比較的長い時間かけて取り組むまとめの活動では,の「子どもの道筋」を大切にした授業設計をしていく。もちろんそれは,子どもが描く見通しと教師のねらいを重ねあわせながら授業設計を更新していくことであり,そうすることで活動が子どもたちにとって意味あるものになると考えているからである。

6.音楽科活動計画の全体構造

本校音楽科では,このような経験の積み重ねから自らの活動(=学び)に『自信』をもち,そこで育まれた力が,音楽科の目指す「仲間と表現をつくる力」となり,目標である「自ら音楽にはたらきかけようとする心情」を育んでいくと考えている。 (文責:齊藤 豊)



				,									
	4月	5月	6月	7月		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6年生		最後の発表会								卒業に向けて			
育てたい 資質・能力									・自分たちの思いと、その曲のもつ心情や情景を重ね合わせて、より深く音楽を味わう・「卒業の会」に向けての様々な取り組みの中に音楽的な見方・考え方を取り込み、自分たちの思いや意図を表現する				
5年生		音楽で世界旅行				グループ	であわせよう	わたしたちの発表会					
育てたい 資質·能力		・音楽文化の多様性に触れながら、違いが豊かさにつながるという感覚をもつ・拍節を感じながら合わせる				・考えを出し合って、試しながら 一つの表現をつくる ・仲間と音楽表現をつくる過程 を知る			合った表現をする 験してきたことから	何を学んだかのかを見出しながら、			
4年生			音楽で国内旅行				音	音楽で世界旅行			4年生のまとめしよう		
育てたい 資質・能力		・我が国や郷土の伝統文化に 触れ,その良さを感じる				・音楽文化の特性に触れながら、その良さに気付く ・仲間と息を合わせる心地よさに浸る			・自分たちの経験をつなげて仲間と協働しな がら表現活動をする				
3年生	リコーダーと仲良し									3年生のまとめをしよう			
育てたい 資質・能力	・仲間とともに挑戦と達成を繰り返し楽しさを感じる				り返しな	がら、できていく	・自分たちの経験を生 る過程に関わる ・できないことに楽しく とをより良い表現に生			。 に楽しく挑戦で	きたり、できるこ		
2年生	ようこそ おあいてさん!				楽器となかよし 歌と楽器を合わせてみよう					楽しかった2年間			
育てたい 資質·能力	・音楽を生活の中の様々な場面で活用し、その 曲想を生かして人との関わりを豊かにする				・自分なりの思いを表現に生かす ・表現活動を自分たちの生活の中に関連づけ取り入れようとする ・自分たちの思いに合った表現を目指して仲間と工夫を重ねる					・自分たちの経験をつなげて 表現する			
1年生	お気に入りの歌を歌おう					楽器となかよ			J	お相手さんに思いを伝えよう			
育てたい 資質・能力	・声をあわせて歌う心地よさを感じる 自分の好きな曲をもつ							・身の回りの音の豊かさに気づく			・声で伝える。歌を届ける		

そ の 活 動 で 生 か し て 欲 し い そ の 子 の 資 質 能 ' を楽を 3描 き 実 践 を し て い る 。